

2019年08月13日(火)【外為Lab】松田哲
タイトル:【夏休み相場は、本当に休むことも戦術】

本格的な「夏休み相場」の季節です。

今週は、日本の「お盆休み」なので、会社に出勤せずに、自宅や実家で過ごしている市場の参加者も多いことでしょう。

日本の為替ディーラーたちは8月のお盆前後に集中して休みを取りますが、欧米の為替ディーラーたちは、一足早く米国の独立記念日(7月4日)から8月最終週の月曜日まで、長期間の夏休みに入っています。

もちろん全員が一斉に2カ月近く休むわけではなく、2週間から長い人で1カ月、交代で休みを取ることになります。

交代で休むとはいえ、商いが薄くなることは間違いなく、何かコトが起これば、為替相場は想定を超える乱高下に見舞われる可能性が高い状況です。

市場参加者が極端に少なくなると、何かコトが起これば、極端に乱高下することもあります。何もコトが起きない場合は、相場がビクとも動かないケースもあり得ます。

+++++

「夏休み相場の現時点で、相場の与件を見渡すと、悪いものばかりが目立ちます。

米中の貿易摩擦問題は、当面のところ、進捗が見られません。

外国為替相場には、直接的な影響が無いと考えますが、日韓関係の悪化も、解決に向かうきっかけさえも見当たりません。

欧州経済も悪化に向かっていることが鮮明です。

英国に関しては、メイ首相からボリス・ジョンソン首相に交代して、ブレグジット(英国のEU離脱)が「合意なき離脱」になる可能性も、高くなっています。

つまり、ブレグジット(英国のEU離脱)問題に関しては、混迷が続いたままです。

豪州(オーストラリア)にしても、米中貿易摩擦問題の影響から、景気が悪化して、豪ドル金利の引き下げ傾向が鮮明になっています。

(今後、さらに豪ドル金利が引き下げられる可能性がある)

+++++

上述の与件（各テーマ）は、「夏休み相場」が明けても、重要な相場の材料で有り続ける、と考えます。

換言すれば、上記は、「夏休み相場明け」のテーマを羅列した、と言えます。

+++++

ただし、今週は、典型的な「夏休み相場」です。

自由な時間が作れる夏休みこそ、活発にFX取引をしたいと考える投資家は多いのかも知れませんが、このような時期は無理をせずに、ポジションを小さくしておくことが原則です。

自分の都合で動かずに、「マーケットに従う」ことが勝つためのセオリーだからです。

そして、それぞれの投資家自身が夏休みを取るときは、何が起こっても良いようにポジションを整理しておくことが大原則です。

自分が夏休みを取って、遊んでいる間に、ポジションを取りながら、マーケットを見る機会が無い、などは、最悪のパターンです。

中途半端な対応が最も危険です。

夏休みを取って、遊んでいながら、マーケットも見ずに、楽しんで儲けようなどといった、不遜な考えは捨てましょう。

ポジションを取るのならば、夏休みは返上して、フルの体制でマーケットに臨むべきです。
(たとえマーケットが、びくとも動かなくても)

別な言い方をすれば、「夏休み相場」の期間は、本当に休むことも戦術です。

+++++

(2019年08月13日東京時間14:10記述)